

科目名	触診実技						年度	2026			
英語科目名	Palpation practical skill						学期	前期			
学科・学年	柔道整復科 2年次			必/選	必	時間数	30	単位数	1	種別※	実技
担当教員	星野虎之助			教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師(接骨院にて勤務経験あり)		
【科目の目的】 柔道整復師が臨床現場で診断するにあたり、重要な診断法である触診の基本を学ぶ。手の触覚、振動覚、温冷覚を用いて、皮膚や外部にある腫瘤の性状や温度、拍動・振動の有無、圧痛の有無や程度を把握する。目的に応じて、指先、指の付け根、手背など、用いる手の部位を使い分けが出来るようになる。											
【科目の概要】 部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。											
【到達目標】 柔道整復師の中核ともいえる骨や筋、靭帯や関節等の観察をし、靭帯や筋の硬さや走行を感じながら触察技術を習得することを目標としている。評価を行う上で必要な機能解剖を理解する。疾患の鑑別ができるよう、また問診も含めて視診に始まり、徒手による各種検査法を中心に学び理解することを目的としている。身体の計測、関節可動域の計測、徒手筋力テスト、知覚の検査などを理解し、評価・観察が出来ることを目標とする。											
【授業の注意点】 実技的要素が高く卒業後は患者の体を扱うため、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視するとともに授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。											
評価基準＝ルーブリック											
ルーブリック評価	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1						
到達目標 A	触診の意義について完全に理解している。	触診の意義について大体理解している。	触診の意義について部分的に理解している。	触診の意義についての理解がやや不足している。	触診の意義について理解していない。						
到達目標 B	皮膚の触診について代表的な圧痛点の部位を正しく触れることができる。	皮膚の触診について代表的な圧痛点の部位を大体触れることができる。	皮膚の触診について代表的な圧痛点の部位を理解はしている。	皮膚の触診について代表的な圧痛点の部位がやや理解不足である。	皮膚の触診について代表的な圧痛点の部位を理解していない。						
到達目標 C	筋の触診について萎縮・肥大などの代表的な疾患を完全に理解している。	筋の触診について萎縮・肥大などの代表的な疾患を大体理解している。	筋の触診について萎縮・肥大などの代表的な疾患を部分的に理解している。	筋の触診について萎縮・肥大などの代表的な疾患の理解がやや不足している。	筋の触診について萎縮・肥大などの代表的な疾患を理解していない。						
到達目標 D	骨・関節の触診について体表から触知できる骨性目標を正しく理解している。	骨・関節の触診について体表から触知できる骨性目標を大体理解している。	骨・関節の触診について体表から触知できる骨性目標を部分的に理解している。	骨・関節の触診について体表から触知できる骨性目標の理解がやや不足している。	骨・関節の触診について体表から触知できる骨性目標を理解していない。						
到達目標 E	胸部における結節や主流などの変化、腹部の触診による腫瘍臓器の位置などについて正しく理解している。	胸部における結節や主流などの変化、腹部の触診による腫瘍臓器の位置などについて大体理解している。	胸部における結節や主流などの変化、腹部の触診による腫瘍臓器の位置などについて部分的に理解している。	胸部における結節や主流などの変化、腹部の触診による腫瘍臓器の位置などについて理解がやや不足している。	胸部における結節や主流などの変化、腹部の触診による腫瘍臓器の位置などについて理解していない。						
【教科書】 教科書（運動療法のための機能解剖学的触診技術-青木隆明監修-）に準拠する。											
【参考資料】											
【成績の評価方法・評価基準】 試験と課題を総合的に評価する。											
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。											

科目名		触診実技			年度	2026
英語表記		Palpation practical skill			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ガイダンス	触診の基本を理解する	1 運動の面・軸・方向	運動の面・軸・方向について理解する	3	
			2 姿勢の表し方	各姿勢の名称と状態を理解する		
			3 触診の指の使い方	触診の指の使い方を理解する		
2	レイヤー触診、キプラーロール、背部ランドマークの触診	皮膚の階層構造、背部のランドマークを理解する	1 皮膚の解剖	皮膚の階層構造をお理解する	3	
			2 背部の機能解剖	背部の機能解剖について理解する		
			3 背部の触診	背部の触診が出来るようになる		
3	頭頸部の触診	頭頸部のランドマークを理解する	1 頭頸部の機能解剖	頭頸部の機能解剖について理解する	3	
			2 後頭隆起～下頂線の触診	後頭隆起～下頂線の触診が出来るようになる		
			3 棘突起の触診	頸椎棘突起の触診が出来るようになる		
4	肩関節の触診	肩関節のランドマークを理解する	1 肩甲骨の触診	肩甲骨の触診が出来るようになる	3	
			2 鎖骨の触診	鎖骨の触診が出来るようになる		
			3 上腕骨の触診	上腕骨の触診が出来るようになる		
5	肩関節の捕集検査、胸郭出口症候群	肩関節の捕集検査、胸郭出口症候群について理解する	1 肩関節部の軟部組織	肩関節部の軟部組織について理解する	3	
			2 肩関節の徒手検査	肩関節の徒手検査が行える		
			3 胸郭出口症候群の概要	胸郭出口症候群の概要を理解する		
6	胸郭出口症候群徒手検査	胸郭出口症候群徒手検査が行える	1 胸郭出口症候群に関わる神経	胸郭出口症候群に関わる神経を理解する	3	
			2 胸郭出口症候群に関わる筋	胸郭出口症候群に関わる筋の触診を行える		
			3 胸郭出口症候群の徒手検査	胸郭出口症候群の徒手検査を行える		
7	肘関節、手関節触診、徒手検査	肘関節、手関節の触診から徒手検査までを理解する	1 肘関節、手関節の機能解剖	肘関節、手関節の機能解剖を理解する	3	
			2 肘関節、手関節の軟部組織触診	肘関節、手関節の軟部組織の触診ができる		
			3 肘関節、手関節の徒手検査	肘関節、手関節の徒手検査が行える		
8	振り返り	前期1回～7回の講義の振り返り。	1 触診の基本	触診の基本を振り返り確認する	3	
			2 機能解剖	各部位の機能解剖を振り返り確認する		
			3 触診	各部位の触診を振り返り確認する		
9	上肢帯、上肢の触診徒手検査	上肢帯、上肢の触診から徒手検査までを理解する	1 上肢帯、上肢の機能解剖	上肢帯、上肢の機能解剖を理解する	3	
			2 上肢帯、上肢の軟部組織触診	上肢帯、上肢の軟部組織の触診ができる		
			3 上肢帯、上肢の徒手検査	上肢帯、上肢の徒手検査が行える		
10	腰部触診、腰部・骨盤帯の徒手検査①	腰部のランドマークを理解する	1 腰部の機能解剖	腰部の機能解剖について理解する	3	
			2 腰椎棘突起の触診	腰椎棘突起の触診が出来るようになる		
			3 椎間関節の触診	椎間関節の触診が出来るようになる		
11	腰部、骨盤帯の徒手検査②	腰部のランドマークを理解する	1 腸骨稜・ヤコビー線の触診	腸骨稜・ヤコビー線の触診が出来るようになる	3	
			2 ASIS・PSISの触診	ASIS・PSISの触診が出来るようになる		
			3 腸腰筋の触診	腸腰筋の触診が出来るようになる		
12	膝関節の触診、徒手検査①	膝関節の骨の触診	1 膝蓋骨の触診	膝蓋骨の形状を理解し正しい触診ができる	3	
			2 大腿骨の触診	膝関節に関わる大腿骨の部位を触診できる		
			3 脛骨・腓骨の触診	膝関節に関わる脛骨・腓骨の部位を触診できる		
13	膝関節の触診、徒手検査②	膝関節の靭帯・筋の触診	1 膝関節軟部組織の機能解剖	膝関節軟部組織の機能解剖を理解する	3	
			2 膝関節の筋の触診	膝関節に関わる筋の触診ができる		
			3 膝関節の靭帯の触診	膝関節に関わる靭帯の触診ができる		
14	振り返り	前期9回～13回の講義の振り返り。	1 機能解剖	各部位の機能解剖を振り返り確認する	3	
			2 触診	各部位の触診を振り返り確認する		
			3 ランドマーク	各部位のランドマークを振り返り確認する		
15	足関節、足部の触診	足関節の骨・筋・靭帯の触診	1 足関節の機能解剖	足関節の機能解剖を理解する	3	
			2 足関節の筋の触診	足関節に関わる筋の触診ができる		
			3 足関節の靭帯の触診	足関節に関わる靭帯の触診ができる		

評価方法：1. 小テスト、61. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考等